

# 造影剤使用検査説明書

## 予定される検査名

- CT
- MRI
- 排泄性尿路造影検査(IVP)
- 排泄性胆嚢造影検査(DIC)
- その他

\* 造影剤使用検査による危険性として、次のような事があります。

・アレルギー性ショック・腎、肝臓機能障害・感染症・その他

\* 造影剤使用による副作用として、まれに次のような事が現れます。

・吐き気・発疹・蕁麻疹・かゆみ・熱感・頭痛・めまい・呼吸がしづらい・脱力感など

\* ごくまれに検査終了後 1 時間から数日後に副作用が現れる事があります。

・検査の過程で生じた不測の事態に対しては、担当医師が迅速・適切な処置を行います。  
場合によっては入院治療の必要性が生じる事があります。

詳細は別紙をご参照ください。

同席看護師

医師

## 同意書

私は検査における造影剤使用の有用性と危険性について説明を受けました。

その必要性を理解した上で、造影剤使用検査を受ける事に同意します。

令和 年 月 日

病院長殿

患者氏名 \_\_\_\_\_

または

同意者氏名 \_\_\_\_\_ (続柄 \_\_\_\_\_)

湘南東部総合病院・クリニック

検査当日はこの同意書を御持参ください。同意書無い場合は造影検査が出来ない場合がございます。

## 造影 X 線検査 (CT,IVP,DIC) を受けられる方への説明

### 1. 造影 X 線検査とは

ヨードを含む薬(造影剤)を血管内に注射しながら行う X 線検査です。この検査には X 線造影 CT、排泄性尿路造影 (IVP)、DIC などが含まれます。造影剤を使用することにより、病変の存在や性状などがより詳しく抽出され、診断に大変役立ちます。

### 2. 造影剤の副作用

検査に際しては、その時点での症状や以前かかった病気、家族の方がかかった病気などに注意しながら安全に検査が行われるように務めておりますが、検査中あるいは検査後しばらくしてから下記の様な副作用症状が起きることがあります。

軽い副作用 (頻度は 3~5%以下) : 吐き気、嘔吐、頭痛、めまい、蕁麻疹、発疹、かゆみ、手足のむくみ、発熱、せき、など

重い副作用 (頻度は 2500 人に 1 人以下) : 極まれに呼吸困難や血圧低下が起こることがあります。重症腎障害の場合には腎性線維化皮膚症と言われる、皮膚が腺維化をおこすことがあります。

以下の既往がある方は造影剤の副作用が生じる頻度が比較的高く、症状が強くなる場合もあり、造影検査を行わないことがありますので、必ず問診表の記入をお願い致します。

- a. 今までに造影剤やヨード過敏症による症状を起こしたことがある方
- b. 気管支喘息などのアレルギー疾患のある方
- c. ほかの薬剤過敏や蕁麻疹などアレルギー歴のある方

### 3. 副作用の予知について

初めて造影検査を受けられる方、または今までに造影剤やヨード過敏症による症状を起こしたことのない方が、今回の造影検査で副作用を起こすかどうかをあらかじめ調べる方法は現在のところありません。

- \* 以前は少量の造影剤を使用する皮内テストや静脈内テストが行われていましたが、有効であるとの根拠がなく現在は行われておりません。

注 : 以上の説明をご理解いただいた上で、別紙の同意書に署名をお願い致します。  
同意書に記入された後でも、いつでも造影検査を拒否されてもかまいません。  
なお、ご不明な点は担当医師までお問い合わせください。

## 造影 MRI 検査を受けられる方への説明

### 1. 造影 MRI 検査とは

ガドリニウムを含む薬(造影剤)を血管内に注射しながら行う MRI 検査で、病変の存在や性状などがより詳しく抽出され、診断に大変役立ちます。

### 3. 造影剤の副作用

検査に際しては、その時点での症状や以前かかった病気、家族の方がかかった病気などに注意しながら安全に検査が行われるように務めておりますが、検査中あるいは検査後しばらくしてから下記の様な副作用症状が起きることがあります。

軽い副作用(頻度は 3~5%以下): 吐き気、嘔吐、頭痛、めまい、蕁麻疹、発疹、かゆみ、手足のむくみ、発熱、せき、など

重い副作用(頻度は 2500 人に 1 人以下): 極まれに呼吸困難や血圧低下が起こることがあります。重症腎障害の場合には腎性線維化皮膚症と言われる、皮膚が腺維化をおこすことがあります。

以下の既往がある方は造影剤の副作用が生じる頻度が比較的高く、症状が強く出る場合もあり、造影検査を行わないことがありますので、必ず問診表の記入をお願い致します。

- d. 今までに造影剤やヨード過敏症による症状を起こしたことのある方
- e. 気管支喘息などのアレルギー疾患のある方
- f. ほかの薬剤過敏や蕁麻疹などアレルギー歴のある方

### 3. 副作用の予知について

初めて造影検査を受けられる方、または今までに造影剤やヨード過敏症による症状を起こしたことのない方が、今回の造影検査で副作用を起こすかどうかをあらかじめ調べる方法は現在のところありません。

### 4. MRI 検査を行えない場合

手術や他の治療法によって磁性のある金属が体内にある場合など、造影の有無にかかわらず、検査が施行できない場合がありますのであらかじめお申し出ください。

例: 心臓ペースメーカー、脳動脈クリップ、金属性要入れ歯、人工骨頭、入れ墨など

注: 以上の説明をご理解いただいた上で、別紙の同意書に署名をお願い致します。  
同意書に記入された後でも、いつでも造影検査を拒否されてもかまいません。  
なお、ご不明な点は担当医師までお問い合わせください。